

コントロールできなかった 救急疾患から学ぶ

救急疾患ケーススタディ

不本意にもコントロールできなかった症例について、我々獣医師はどうしても口を閉ざしてしまいがちです。できることなら上手くいった症例だけを発表したい。けれど、本当の進歩は失敗症例から始まるものです。私の二の舞にならぬよう、、、コントロールできなかった症例から見えてくる、より良い治療を探ってみたいと思います。

第1回 2017年12月6日(水) 心原性肺水腫治療

トイプードル(避妊済) 10歳

治療経過

僧帽弁閉鎖不全症に起因する心原性肺水腫。酸素室内で通常の利尿治療を行っていたが、改善せず。呼吸停止間近と思われ、挿管し陽圧換気を開始した。多量の水を排出させ、酸素分圧を改善させることはできたが、乏尿及び高炭酸ガス血症から抜け出すことができず。最終的には脳死状態で死亡。



考察のポイントは？！

急性に悪化する心原性肺水腫に対し挿管・陽圧換気をするに当たり、心得ておくべきポイントとは？

第2回 2018年1月10日(水) 敗血症治療

猫(去勢済) 12歳

治療経過

元気食欲低下。膿胸と診断。膿を穿刺除去して抗生剤と点滴治療をしていたが... 6時間後には意識レベル、バイタルサインは顕著に低下。胸腔ドレーンを入れて胸腔洗浄を開始したが敗血症を脱することができず、来院5日で死亡。



考察のポイントは？！

敗血症治療に手加減はいらない。積極的な介入はどの時点ですべきだったか？

第3回 2018年2月14日(水) 腹腔内出血

チワワ(去勢済) 9歳

治療経過

急性虚脱、ショックの状態で来院し、脾臓からの腫瘍性腹腔内出血と診断。1時間程の点滴治療の後、手術に臨んだ。脾臓摘出が済み、無事手術を乗り越えたかに見えたが... 突如徐脈に陥り、あっという間に心肺停止に。心臓マッサージもエピネフリンも効果無く、手術台の上で死亡。



考察のポイントは？！

来院以降のモニタリングは適切であったのか？術中に心肺停止を予期できる数値は無かっただろうか？

講師 杉浦洋明

DVMsどうぶつ医療センター 横浜救急診療センター

2006年東京農工大学卒。微生物学研究室に所属。6年間木更動物病院(浜松市)で一般臨床に従事。2012年より DVMsどうぶつ医療センター横浜の救急診療センターで勤務。2015年より同センター医長を務め、救急チームを率いながらER・ICU分野の発展を期して活動中。



2017年12月6日(水)

2018年1月10日(水)・2月14日(水)

全日程:19:30~21:30

主催 株式会社Life&Tail

定員 40名 参加費 有料会員:3,000円(全3回)
無料会員:18,000円(全3回)

会場 ハロー一貸会議室新宿 Dルーム

東京都新宿区西新宿1-5-11 新宿三葉ビル6F
【アクセス】JR・地下鉄「新宿駅」西口 徒歩約1分

復習用動画配信 あり

有料WEB配信 あり

※2018年秋頃配信予定

※有料WEB配信について

弊社のWEBセミナーは当開催の講演映像となりますが、内容(質疑応答や症例など)を一部カットして配信します。予めご了承の上お申し込みください。



申込方法

WEBへアクセス



life-tail.com

会員登録

規約に同意して登録

お申し込みには事前に会員登録(無料)が必要です

セミナー申込



開催概要を再度確認し必要な項目を入力します

カード決済



決済はクレカのみ!

決済画面でカード番号・カード名義を入力し決済します

申込完了



申込完了メールを受信します。領収書もマイページより印刷可能です。

セミナーに関するお問い合わせ

株式会社Life&Tail
03-6278-7127
(平日10~18時)

または